

次の世代を育むために

わが家のミルクにできること

オオヤブデイリーファーム代表 大藪 裕介さん(黒石)



①につぼんの宝物JAPANグランプリの表彰時の写真 ②MILK'ORO～みるころ～エイジングヨーグルト ③妻の沙紀さんと二人三脚で最高賞を掴みました。



愛情を注いで牛を育てています

6月1日、東京都の汐留で開かれたにつぼんの宝物JAPANグランプリ。オオヤブデイリーファームが出品した「MILK'ORO～みるころ～エイジングヨーグルト」が最高賞に選ばれた。

地域大会でグランプリを獲得。本大会では2分間のプレゼンで自身の熱い思いを語った。「商品の説明より、仕事に対する思いやこだわりを伝えました」と大藪さんは振り返る。

約15年前、大藪さんは父の代から続く酪農家への道を進んだ。その数年後、初めて生乳の生産調整を経験。大量の牛乳を廃棄した。「自分が愛情をこめて作った牛乳を捨てないといけなくなる、これがどんなにきつかったか。酪農家として存在意義は何だろう」

その時、マーケティングの先生と出会い、「あなたの商品に選ばれる理由がありますか」と問われ、目が覚めた。酪農家としての存在価値を必死に考えた。「牛乳の特徴を無駄にせずに、おいしさの違いを表現できる商品をつくりたい。たどり着いた

答えはヨーグルトでした」

ジャージー生乳をそのまま発酵させてできるヨーグルト。ヨーグルトの上部にレアチーズケーキのように黄金に輝く層ができる。「中身だけでなくパッケージから容器、デザイン、商品、手に取ってくれる人のことを想像しながら、何度も何度も試行錯誤しました」

商品そしてオオヤブデイリーファームのファンが徐々に増え始める。今では全国的に注目されるようになった。趣味は、海外旅行。「世界中のヨーグルトを食べ歩き、気持ちの熱い酪農家さんを訪ねて回っています」

将来の目標は「おいしい、楽しい」を提案し、選ばれる農家になること。先代の時から、本物の味を伝える食育活動を行ってきた。「脱脂粉乳から作るヨーグルトと生乳から作る本物のヨーグルト、食べてみれば全く味が違いますよ。子どもたちが本物の味と出会う場を作りたいですね」ヨーグルトを通して私たちの食卓を豊かにしたい、飽くなき挑戦は始まったばかりだ。

あなたの周りにいるキラッと輝く合志人を紹介してください。自薦他薦は問いません。たくさんの紹介をお待ちしています。

あなたの周りの合志人を探しています
企画課 企画広報班(合志庁舎) ☎248-1813

和顔愛語



スイカ部会の皆さんからスイカの贈呈がありました。(詳しくはP14)
私の夏の思い出の1つがスイカ。幼いころ、市内に住むひいおじいちゃんの家遊びに行くときよく食べさせてくれました。昔ながらの縁側に座って果汁だらけになりました。昔ながら「芽が出ないかななんて思いながら種を庭に埋めてみたことも。皮の部分は漬物になって食卓に並んでいました。
いまだに、食べれば手も口も真っ赤にしてしまふけれど、そのたびに縁側のスイカの味を思い出します。
皆さんの夏の思い出は何ですか。

小山

5月下旬から6月はイベントが多く、皆さんの素敵な表情と出会いました。
印象的だったのは田んぼでのイベントです。昨年は田んぼに浸かりながら写真を撮っていたので全身泥まみれ。子どもたちからも、ばんばん泥を投げられて逃げ回っていました。
昨年の反省から、ことは田んぼの外から撮影。なんと子どもたちの笑顔も撮れました。7月はお待ちかねのマンガミュージアムの1周年イベント。豪華ゲストに面白いイベントがありますので、ぜひ皆さんも行きたいように♪

井芹

人の動き

人口……………61,784 (+44)
世帯……………24,159 (+43)
出生…45 (-13) 転入…260 (-120)
死亡…62 (+26) 転出…199 (-115)
※5月末現在 ()内は前月比

